

一般の部

《特選》

障害者差別

彦根総合高等学校 1年

佐々木 千紘 さん

私の友だちにはダウン症の子がいます。彼女は私と同じ年齢で、高校は離れてしまっただけ、今でも仲良くしています。

小学生の時に合唱コンがあり、彼女は話すことが苦手だったけれど一生懸命に取り組んでいました。しかし、その姿を見た周りの人たちは彼女を冷やかしたり、笑ったりするなど差別行為をしていました。でも彼女は、周りから何を言われても誰よりも努力して頑張っていました。彼女は彼女なりの努力をしているから周りの人たちもそれに気づいてほしい

と強く思いました。

障害者の方についてみなさんはどのような考えをもっていますか。どんなことを考え、行動し、どんな風に思っただけは人それぞれです。ですが、その行動を間違えることで相手が傷つくことがあります。もし自分が傷つけないように行動していても相手の人が嫌だと思っただけだったりします。

私も障害者の方についてどんな考えをもっているか考えてみました。改めて考えるとすぐに答えは出てきませんでしたが、私は障害者の方も健常者の方もみんな一緒の人間だと思いました。障害者の方と健常者の方で見ただけで違う部分もあるかもしれない。ですが見たためだけを見て相手のことを知ることはできません。努力して頑張っている人たちはたくさんいます。お互いの努力して

いることを見て気づいてほしいと私は思いました。見ただけで判断しないで相手の人のことを知るといふことが大切だと思いました。みなさんも障害者の方についてどう思うか一度しっかり考えてみてほしいです。そしてお互いを認め合ったり、支え合ったりしていけたらいいなと思います。

私は、差別をしてはいけないと、かみんな一緒の人間だと言っていました。もちろんそう思っているけれど、自分が気づかないうちに差別的行動や発言をしてしまっていることは絶対にあります。自分で自分の行動を見直し、改善していきたいなと思います。また、自分は差別をしていないと思っただけでも相手を傷つけていたという人たちは周りにたくさんいます。だから、自分では気づけないことを周りの人たちが

気づき教えてあげることが大切だと思いました。周りの人たちから教えてもらう前に自分でも今の行動、発言は相手を傷つけてしまうことだったのかを一度考えて、改善し、実行していくことも大切だと思いました。

この作文を書いて障害者の方、健常者の方がお互いに支え合っていく社会にしたいなと改めて強く思いました。

《選評》

障害がある長年の友だちとの友情を通して、障害者がある人なりに努力していること、健常者だけでなく様々な人が社会で支え合っていること、人を見た目だけで判断しないこと、自分自身も差別的な行動や発言をしているかも知れないという自戒も込めながら、気づきを教え合うことの大切さなど、障害者理解に対する心の叫びのようなものが感じられる優れた作文です。